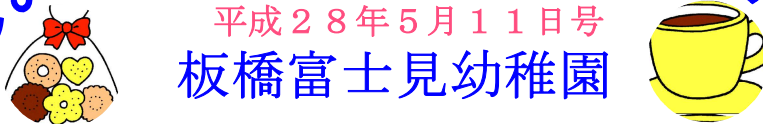


ふじみサラダボール子育て情報

「子どもの環境」
平成28年5月11日号
板橋富士見幼稚園



生活環境の質と子どもの育ち

最近、幼稚園や保育所の保育環境の質が問われるようになってきました。今までは、園庭と遊具【砂場やすべり台とブランコ】と規定され、その遊びについては、殆ど関心が持たれていませんでした。しかし、近年、幼稚園の環境は、こうした遊具や園庭があれば良いだけではなく、一人一人の子どもにとって、この時期の発達として、最もふさわしい経験が十分にできる環境が大切であると言われるようになりました。そのため、様々な経験ができる環境を整備していくことが求められています。



教育は、家庭教育と社会教育そして学校教育の3つの教育が一体になって、子ども達の今を育てていく必要があります。そのために、それぞれの家庭環境や、社会環境(地域)・そして園環境が、しっかりと整っていることが、「幼児期にふさわしい環境」と言えるのです。では、ふさわしい環境とは、どのような環境を指すのでしょうか。

まず、人間にとって一番大切な環境を考えたとき、誰もが真っ先に上げるのが、「自然」です。家庭や地域や園にどれだけの「自然」が存在しているかということです。

最近の都会では、土や木や緑に触れる機会も薄れ、ふさわしい環境と出会うことが難しくなっています。実は、自然は子どもの成長に最も大きな影響を与えるもので、人格【性格や気質】を決定する基盤をも形成します。何故なら、自然と共生できる環境では、イライラや不満が無くなり、ストレスから解放されるからと言われています。自然環境は、直角や平行が存在しないアナログの世界であり、だれもがたやすく共生できるからです。さらには、原色が存在しない、心優しい刺激環境であることも大切な要因です。そこで、まず、ご家庭で身近にできる自然環境作りを提案します。

小さな水槽【ペットボトルを切った水槽など】に小さなお魚一匹を飼育したり、今なら、町中で売っている苺の小さな鉢植えや、カーネーションの鉢植えなどをテーブルの上に、また、花瓶に一輪の季節の花を飾るだけでも、自然物と出会うことができます。もし、庭やベランダがあれば、プランターで、野菜や草花を育ててみたりするだけでも、家庭に自然を呼び込むことができます。ご家庭でも、是非小さな自然を作ってみてください。ただ、残念なことに、作って置いただけでは、あっという間に朽ちてしまいます。そこで、子どもと一緒に観察【関心を向ける】したり、育てていく楽しさを味わわせたりすることで、継続的に自然を維持していくことができます。自然は考える力を引き出す源泉であり、安らぎを与える大切な環境です。

時に、叱らなくてはならないとき等も、叱られた後、水槽や草花等の小さな自然に逃げ込み、心を癒やすに違いありません。

子どもの心は繊細でデリケートなものなのです。大切にしてください。